

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区南久が原 1-24-16
園名	アスクみなみ久が原保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗や世界について

<テーマの設定理由>

もともと園にあった、世界の図鑑をきっかけに子どもたちが世界について興味をもっていたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする。

「〇〇は日本のもの？アメリカのもの？どっち？」のお題に沿って、考える、「この国旗の国はなんでしょう？」「アメリカの国旗を好きな色に塗ってみよう。」をテーマに、様々な国について知ったり、国旗に興味をもつきっかけを作る。

「自分だけのオリジナルの国旗を作ってみよう」のテーマに沿い、好きなように国旗を作る。

どの国がどんな形や色の国旗なのかを知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

お題に沿ったクイズ：国旗の絵が描かれたカードを使い、わかりやすくする。

自分ならではの国旗を作ってみよう：クレヨンを人数分用意し、机と椅子を使うことで集中して活動に取り組むことができるようにする。

- ・国旗の絵本
- ・るるぶはじめての英語かるた
- ・世界迷路ブック
- ・楽しく遊ぶ学ぶせかいの図鑑
- ・せかいの図鑑
- ・くもんの地球儀
- ・せかいの地図絵本
- ・絵入りひらがな地球儀
- ・世界のことばあそびえほん
- ・くもんの世界地図パズル

4. 探究活動の実践

最初は「〇〇は日本のもの？アメリカのもの？どっち？」のお題に沿ってクイズを行う。「〇〇」には日常の様々なものが入り、ハンバーガーや寿司、富士山やフットボールなどが候補に上げられる中で子どもたちは相談したり、自分で考えたりし答えを導き出していた。

自分が思っていたものが日本のもの（またはアメリカのもの）ではなかったことについて驚いている様子であった。

国旗の色を塗ったり、自分ならではの国旗を作っていく中で以前よりも増して国旗に対する興味が出てきている様子であった。意欲的に取り組むその中で、国旗の色だけでなく、太陽や楓の葉などのシンボルとなるマークについての問いなどにも積極的に答える姿があった。

<振り返り：保育士の気づき>

「この国旗にはいくつ星が使われているか？」「どうしてこの色が使われているのか？」「このマークは何を意味しているのか？」など、子どもたちが疑問に思う着目点が大変からしたら思いもよらないところにあり、驚いた。

マークなどもその国の特産品であったりなど、意味があるという事を子どもたちと一緒に知ることとなった。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「〇〇はアメリカのもの？日本のもの？」を問いかけるクイズでは、答えた後に講師に「これはアメリカのものだよ」と教えてもらった時には、「そうだったんだ。」と納得する姿がみられた。その後のゲームでもおしえてもらったことを覚えており、「これはアメリカだったよね。」答える姿があった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

すくわく活動を行なった後には、世界の絵本や国旗が載っている図鑑などを見て振り返る子どもたちの姿が多く見られた。
中には、自分なりに考え保育者に「国旗のクイズ」を出題し遊びを楽しむ子の姿も見られ、以前よりも世界や国旗への興味や関心が増えたように感じる。
他にも、世界の料理図鑑を通して食べてみたい世界の料理を友だちと話し合う姿も見られているため、クッキングなどを通して世界の料理を実際に作ってみる機会なども作っていきたい。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区南久が原 1-24-16
園名	アスクみなみ久が原保育園

1. 活動のテーマ

- ・ 身近な音のオノマトペ
- ・ 音の鳴る仕組みについて

<テーマの設定理由>

園行事の経験を重ねるたびに、発表することを楽しむようになる子どもたちの姿が見られるようになった。
遊びの中でも、おもちゃを楽器に見立てて「アイドルごっこ」をする姿が見られていたため、様々な楽器を使い音の出し方や、表現の仕方を知ることによって遊びを更に充実させる目的をもった。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。
絵本「がちゃがちゃどん」をもとにオノマトペについて知る。
身近な生活の中で聞こえる音がどんな音で表現できるかについて考える。
身近な素材（ペットボトル、ザル、ボウルなど）からどんな音が出るか実際に試してみる。また、その音が日常のどんな音に似ているかを考える。
楽器を使い、音の鳴る仕組みについて考える。実際に鳴らしたところに触れることで音の振動を肌で感じる。
いくつかの楽器に触れ、音の振動の仕方を感じた後に、4つの分類分けを行う。
最後に実際に楽器を使った演奏を行い、発表会をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(オノマトペに関する活動)

- ・絵本「がちゃがちゃどん」をもとに日常の音を言葉で表現する。
- ・日常の音に関するビンゴカードを使いゲーム形式で身近な音について考える。
- ・ペットボトル、ザル、ボウルではどんな音が出るか実際に鳴らしてみる。
- ・フレームドラム、トライアングル、手作りのペットボトル製の笛を使い音の鳴り方について見て考えることができるようにする。
- ・4つの楽器の分類カードを使い、「まくめい楽器」「げんめい楽器」「たいめい楽器」「きめい楽器」の4つに楽器を分類することをクイズ形式で行う。

- ・マラカス 2個1組 ・専用スタンド(木琴) ・本格わだいこ
- ・ミュージック ポン・プー ・木琴(本体) ・アゴゴウッド ・ハンドウッドブロック ・カスタネット木製 ・バンビーナ カスタネット カエル

4. 探究活動の実践

実際に、楽器から音が鳴る様子を見たり、鳴っている途中で楽器に触れることで音の振動の仕方を肌で感じる事ができた。

振動している楽器に触れた子どもたちは「ぶるぶるしてる」「さわると、おとがちがくなった。」と振動の仕方や音の変化にも気づいた様子であった。

その後は、それぞれの楽器を4つに分類分けをした。

どの楽器が「まくめい楽器」「げんめい楽器」「たいめい楽器」「きめい楽器」の4つに分類されるかを考えたり、それぞれの楽器がどうして分類されるのか理由についても講師から説明を受けながら楽しんで探求活動を行った。

また、その場にはない楽器(大太鼓、トランペット、ギター、ハープなど)の絵カードを並べ4つのどの楽器に分類されるかななどをクイズ形式で行う。

最初は自信なさげな様子で答える子どもたちであったが、理由を添えて回答する子がいたことで、楽器の分類に規則性があること(例:まくめいがつき=叩くと音の出る楽器)に気がつき、自分で考えをめぐらせ、答えようとする姿がみられていた。

<ふりかえり:保育士の気づき>

オノマトペの活動では、子ども1人ひとりによって答えが違うことが探究活動の面白さでもあったと感じた。例えば、クッキーの音はあたりまえに「さくさく」だと思っても別の子は「かりかり」である、など自分の中の「あたりまえ」が違うこともある、という気づきを得ることができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

オノマトペに関する活動で日常の音を言葉で表現するゲームでは、「魚」のカードが出た時に、そのカードを手にした子が「なんだろう？わからない・・・」と答える。隣にいた他児が、「ぼくはブクブクだとおもうよ？どうかな？」という意見が出たため、カードを手にした子は「そっか！」と納得のいった表情であった。後で「せんせいはどうおもった？」と聞かれたため「せんせいは、スイスイ！かなと思ったんだ。」と答え、人それぞれで色々な回答がある面白さに気づくことができた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

音の鳴る仕組みについて、知ることができたことで子どもたちの遊びにも変化が見られた。遊びのなかでも、積み木などを使って楽器に見立てて音を出し、遊びを楽しむ。また、廃材遊びでは楽器を作り出す子の姿も見られていた。子どもの発想は無限で、廃材で作ったかばんに楽器をくっつけたりするなど大人が思いもしない発想で遊び展開する姿をみて嬉しく思った。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区南久が原 1-24-16
園名	アスクみなみ久が原保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ボール」とは何か？

<テーマの設定理由>

系列園のドッジボール大会をきっかけにボールに触れるようになったことで、ボールに対しての興味が増えてきたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる

「ボールとは何か？」どんなボールがある？」「どんなふうを使う？」について、椅子に座り考える。身近なボールから、珍しいボールまで様々な意見が出た。

「色々なボールを蹴ってみよう」「蹴りづらいボールがあるのはどうしてだろう？」をテーマに、手作りの新聞紙製のボールを使って実際に蹴ってみる。

「色々なボールを投げてみよう」「どのボールが投げやすかった？」と、子どもたちに問いかけ、ボールの種類を増やし蹴ることに挑戦した。

転がすということについて学ぶ。5種類のボールを転がしてどれが一番転がしやすいかを試した。

「投げる」ことについて学ぶ。手作りのボールと数種類のボールを用意して、友だち同士でペアになり、キャッチボールを行うことで、どのボールが投げやすかったかを確かめる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

「ボール」について考える活動：机、椅子に座り、考えるたり意見を交わすことのできる環境を作った。

実際に蹴る活動：様々な形、大きさのボール、」手作りの新聞紙製のボールを使い、違いを考えた。

- ・ミカサ サッカーボール 18 cm 白
- ・ミカサ スマイルドッジボール 0号

4. 探究活動の実践

「ボールとは何か？」について、考える活動では、3歳児クラスの意見では「まるい」「ふくらんでる」「ころがる」という、ボールの見た目をいう意見が多かった。4歳児クラスの意見では、「りったいてき」「ぷにぷにしているときもあるけど、かたいときもあるよね」と、少し難しい回答があり膨らんでいる時の状態だけがボールではないことを話していた。そして、5歳児クラスの意見では、3・4歳児で出た意見とともに「すいぞくかんにいったときに、あしかしよーでつかってたよ！」と今までの自分の経験をもとに話をする様子が見られた。

また、実際にボールを蹴る活動では、蹴ってみて「蹴りづらい」と感じた時に「どのようにしたら蹴りやすいか？」を考えている様子が見られていた。そして、一回ボールを下に置いてみて蹴るなど、自ら考えながら実践する様子が見られた。その中でも、手作りのボールは蹴りづらいことに気がつき、どうして蹴りづらいのか？どうしたら、うまく蹴ることができるのかなどを考えながら探究する姿が見られていた。

<ふりかえり>

蹴りにくいボールがあることに自分で気がついたことがとてもよかったと感じたため子どもたちの「気づき」「発見」を大事にしていきたい。また、そこから「どうしたら蹴りやすい？」に発展していた為、子どもたちの思考の邪魔にならないように見守りながら関わっていきたい。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

大きさや形の他に「質感」の違いに気づき、持ちやすさについてなどを考える子もいた。同じ素材で作ったものでも、投げやすさが変わることにより多くの子が気がついてきた。また、ボールごとの特徴の違いをよく捉え、素材が異なると手からはみ出してしまう、ツルツルだと掴むのが難しいなど、自分達の「感覚」がどう変わるかまで伝えてくれる子もいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの探究心を見守ったことで、自分で疑問を持ち答えを得ることができていた。また、上手く蹴ることができないなど、困難な問題が目の前にでてきた時には、自分たちで「どうしてむずかしいんだろう？」と考え、「こうしたらいいんじゃないか？」と試すことを行う姿に成長を感じることができた。

